

I T の環境効果に関する調査

Research on Environmental Effect of IT

キーワード

I T (情報通信)、環境負荷低減効果、業務の効率化、ライフスタイル

1. 調査の目的

I T (情報通信) の活用による環境負荷低減効果を把握するために、I T による地球環境への影響および効率化の現状について、企業と一般の人を対象にアンケート調査を実施した。

企業に関しては、現状についての基礎的データの収集を行った。一般の人に関しては、個々人のライフスタイルを通して現状についての基礎的データの収集を行った。

2. 調査研究成果概要

(1) 調査内容

企業へのアンケート調査

環境関連部署の責任者に対して、温室効果ガス排出抑制に関する取り組み、I T の利用状況及び I T 化の取り組み状況とその導入効果、I T の導入による環境負荷低減への効果などについて、調査を実施した。

一般の人へのアンケート調査

自宅でインターネットを利用している人に対して、情報通信機器の利用状況とコミュニケーション手段としての利用状況、インターネットの活用によるライフスタイルへの影響などについて、調査を実施した。

(2) 企業を対象とした主な調査結果

テレワーク活用効果

- ・テレワークを活用することで出張や出勤等外出回数の変化をみた。その結果、特に、『TV会議システム』、『電話会議システム』、『サテライトオフィス勤務』で減少効果が出ている。
- ・即ち、『TV会議システム』を中心に、テレワークの活用が人の移動を減少させる効果をもたらすといった結果が得られた。

コスト・経営効率

- ・ I T ・情報化の主な導入目的は、「社内の情報の共有化」、「業務効率の向上、省力化」、「経営スピードの向上」で、企業内で完結する取り組みが多く見られた。
- ・ I T ・情報化の導入状況は、「電子メール、グループウェア等ソフトインフラの整備」、「基幹業務向け」、「パソコン、LAN等ハードインフラの整備」が高い導入率となっており、企業活動における基盤整備を目的とした取り組みが進んでいる。
- ・ 一方、I T ・情報化の導入効果は、『社内の情報の共有化』、『業務効率の向上、省力化』、『経営スピードの向上』等で「効果があった」と評価している。
- ・ さらに、I T ・情報化に伴い、組織や体制、業務内容や業務フローの見直しをほとんどの企業で着手しているといった結果が得られた。

I Tの導入による環境負荷低減の効果

- ・ I T 導入に伴う環境への影響は、「良い影響を及ぼす」が、『電子メールの利用』、『紙の消費量の減少』、『インターネットの利用』、『遠隔会議の導入』、『電子商取引の導入』、『共同輸配送の導入』等であった。
- ・ 一方、「悪い影響を及ぼす」とされたのは、『FAXの増設』、『パソコン端末の増設』、『サーバの増設』、『電話の増設』等であった。

(3) 一般の人を対象とした主な調査結果

個人生活の中での I T 化の浸透状況

- ・ 自宅での情報通信機器の利用状況について、情報通信機器別利用時間は、固定電話、FAX、携帯電話・PHS（通話のみ）、携帯電話・PHS（メール利用）が「5分以下」、パソコン（メール利用）が「30分以下」、パソコン（インターネット利用）が「2時間超え」となっている。
- ・ 情報通信機器の利用時間について現在と3年前とを比較すると、「減少した」が固定電話とFAXで、「増加した」が、各携帯電話・PHS、パソコンであった。

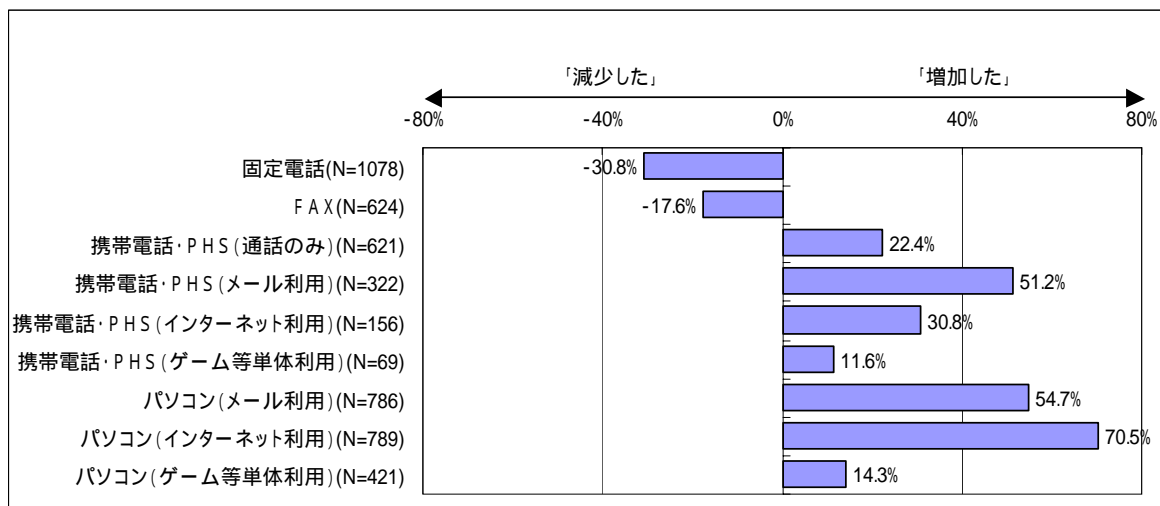


図 1：現在と 3 年前の情報通信機器の月平均利用時間の比較

- ・自宅でのインターネットの利用状況について、インターネットの利用目的は、「新聞や雑誌のような情報収集ツール」、「電話や FAX のようなコミュニケーションツール」等となっている。
- ・日常的に利用しているインターネットのサービスは、「電子メール」、「娯楽や趣味に関する情報収集・検索」、「メールマガジン・メールニュース」等であった。

IT がライフスタイルに与える影響

- ・インターネットの活用が生活に与える効果は、『商品を購入する際の情報収集手段が豊富になった』、『自宅に居ながら用事を済ませることができるようになった』、『趣味に関する専門的・希少な情報の収集が容易になった』、『飲食店やレジャー施設等に関する最新の情報を収集できるようになった』、『手紙に比べ、意思伝達が簡便・迅速にできるようになった』、『好きな時間に用事を済ませることができるようになった』、『雑誌や書籍等に比べ、情報が迅速に収集できるようになった』等であった。
- ・インターネットの活用がライフスタイルに与える影響として、『何か行動を起こす前に情報を集めること』等、インターネットの利用が習慣化していることが見て取れた。一方、インターネットの活用により、『テレビを見ること』、『ラジオを聞くこと』、『雑誌を読むこと』等に減少傾向があり、メディア行動に変化が見られた。さらに、『睡眠時間』が顕著に減少しており、インターネット利用時間の長時間化に伴う影響が出ている。

コミュニケーション手段としての情報通信機器の利用状況

- ・ 目的別に情報通信機器利用状況を見た場合、連絡手段としては、通話機能のある「携帯電話・PHS」や「固定電話」の利用が多い傾向にあるが、特に時間の制約を受けない近況報告は、携帯電話・PHSやパソコンでの「メール」が多くなっている。また、情報収集となると、パソコン（インターネット）の利用が最も多くなっている。
- ・ 距離別の情報通信機器利用状況に関しては、近所の場合「直接会って話す」、それより遠くなると「固定電話」を利用し、さらに、距離が長くなるに従って「パソコン（メール）」が多くなる傾向で、海外の場合は、「パソコン（メール）」が多くなっている。
- ・ 間柄別に情報通信機器の利用状況を見た場合には、話す頻度が少ない、間柄が遠くなるほど「固定電話」が多く、「携帯電話・PHS（通話）」の利用は少なくなっている。